

～県民の生涯学習を支える「知」のインフラ～

静岡県公共／創発情報横断デジタルアーカイブ

静岡県内のあらゆるデータを保存・保管・更新・提供する。行政機関の保有している公共性の高いオープンデータの横断検索機能に加えて、市民から創発的に生成される情報を蓄積するデータベースを保有する。写真や書類、近年進んでいる ICT データのマテリアルをクラウドに一括管理し、更新や取り出しが可能となるシステムを構築する。静岡県のあらゆることを閲覧し情報がスムーズに共有でき、福祉・防災・文化・学習・研究・産業・ビジネス等の様々な用途に組織レベルでも個人レベルでも役立てることができる。今まで不要だと思われて捨てられていた情報をデータ内テーブルにリンクすることで共通性・関係性を向上し、インターネット検索では出てこない情報までも保有する最大級のデータベースとなる。

《公共情報》

公共施設や行政機関が有する機能やデータを網羅的に閲覧・検索できるデータベースおよびポータル機能。以下、データの例。

- ・測量図面等土木インフラ関係データ
- ・県内地形等の点群データ
(静岡ポイントクラウドデータベース等 | <https://pointcloud.pref.shizuoka.jp/>)
- ・公共博物館等が保有する地域資料・文化資料等
- ・行政機関で提供している木の医療・福祉関連機能へのポータル
- ・公共機関や施設等で企画されるイベントの情報 など

《創発情報》

市民から自発的に提供される情報を主として、図書館側から積極的に収集するデータを含む。以下、一例。

- ・古い写真や 8mm フィルム等地域の記録映像
- ・地域のイベント情報
- ・新型コロナ関連の民間データベース
(掛川市の飲食テイクアウト情報サイト「かけがわごはん」など
| <https://kakegawa-takeout.com/>)
- ・商工会など、各自治体の商業団体で蓄積されているデータ

《データ収集方法》

- ・データに応じたポイントが貯まり、図書館に貢献した度合いを可視化できるようにする。
- ・ゲーム要素導入によるデータ提供モチベーションづくり。
(例：称号を付ける (図書委員⇒司書⇒スーパー司書⇒館長見習い⇒館長 etc)、
アバターが豪華になる、図書館公認マーク、他のサービスにポイント活用等)
- ・提供したデータ (画像等) から周辺情報 (時代背景、場所の情報等) を知ることができる。(提供したくなる)
- ・一方的な知識を与えるのではなく、協力しながら集めることができる。
(オープンデータを作成したら図書館に渡すという流れを作り、自然発生的に知や情報の集積を実現する。)
- ・県内に様々な形で存在するデータ (アナログ・デジタル含む) を調査・選定・収集・保存・公開を行う「デジタルスーパー司書」を雇用する



《データ活用方法》

収集した公共情報と創発情報を結合してオープンデータとして公開する巨大なデータベースを用意する。これらを自由に活用できる設備 (パソコン、3D プリンタ) と使い方を教える仕組みを整え、データや情報を蓄積することや利用しやすいようにする。また、組み合わせることで新たなオープンデータを作り出し、さらに蓄積できるような仕組みや協力しながら作業することで関係づくりを行うことも可能となる。図書館以外でも、リアルタイムでの知識の習得ができるようにこれらのデータ等を活用し、スマホを通じ、位置情報をもとに蔵書やデジタルアーカイブ (その場所の時代背景等) を閲覧、貸し出し予約ができるようにしたり、AR、VR と融合できる仕組みを整える。イベント情報などは、希望があれば図書館からプレスリリースを発行するなど広報に役立てることもできる機能を備える。

「データや情報を組み合わせることで新たな価値を生み出すことができる図書館へ」